

令和4年度第2回加西市立図書館協議会議事録

日 時 令和5年3月10日（金） 15:00～17:00

場 所 アスティアかさい3階 集会室

出席者 委員10名：笹倉剛、松本孝美、吉田香代子、井芹明美、松尾弥生、衣笠朋子、市浦央子、志方正典、柳良典、大崎あすか

教委・図書館3名：民輪教育長、伊藤館長、民輪館長補佐、深田係長

欠席者 なし

1 開会 民輪館長補佐が開会を伝えた。（15:00）

2 あいさつ

(1) 会長あいさつ

本日も図書館協議会が実り多き会となるように、どんどん意見を出していただきたい。

図書館で、町が変わる、人が変わるとよく言われている。その事例はたくさん日本にもあるので、ぜひ加西市も図書館または学校図書館で人や町が変わればよいと思う。

図書館は60代を過ぎた方々にとって生きがいの場所である。生涯学習で自分が何をしたいか、60代だからこそ見つけられる新しい人生はあると思う。

今年度から、読み聞かせのアドバイザーとして、幼児教育に取り組みたいと思っている。皆さんもご存知かもしれないが、「胎児はみんな天才だ」という本がある。ジツコ・スセディックさんという東京出身の英語の先生が、アメリカで3人の女の子の子育てをするのに、妊娠した6ヶ月から小学校を卒業するまで毎日本を読むという実践を描いた本である。その子たちが語彙力だけではなく、人間も立派になって、学校は飛び級で進み、3人とも医者になっている。日本では、佐藤亮子さんが、4人の子どもの個性に応じて、1日15冊の本を読まれたそうだ。結果全員東京大学へ入学した。だから、語彙力を高めることはとても重要であり、子育てにおいて小さい頃からの読み聞かせは大事だとつくづく思った。

そして、私はまた原点に戻って研究をもう一度しようと思っている。できれば、博士課程で勉強し直したい。また、まちのためにも何か社会貢献できないかと考えている。

皆さんもいろいろな特技や素晴らしいものを持たれているのだから、ぜひこの加西市や自分のまちに生かしてほしい。

(2) 教育長あいさつ

今日は別の角度からここで話をしたい。この協議会は加西市の文化的なリーダーの方々のお会だと思う。図書館はまちの文化度を表している。そのリーダーの方々に加西市教育委員会が3月議会に上程している令和5年度の主要事業と予算を全体的な意味で知ってもらいたい。図書館だけではなくて、一体どういう方向を向いて何をやろうとしているのか、新企画を中心に話そうと思う。

読み聞かせはやはり幼児の時からという話が出たが、加西市教育委員会こども未来課では約

800 万円の予算を組んで未来型児童館の基本計画の策定を来年度にする予定である。

また、保育教諭が足りないため、保育教諭獲得対策に 1,500 万円。金額が高いと思うかもしれないが、先生方が加西市で働きたいと思ってもらうために、住まいの補助なども含めている。

そして、小中学校だけではなくこども園も給食費を無償化した。これも 7,000 万円ほどかかる。同時に小中学校についてはプラスチックストローを紙ストローにする。

教育総務課が担当している学校給食費の無償化が 1 億 7,000 万円かかる。私はこういうことはどんどん進めたほうがいいと思う。別に無駄づかいをしろということではなくて、教育にもっと政治がお金を使うべきだと強く思っている。

それ以外に世界的指揮者の西本智実さんに「音と科学」をテーマに、プロから学ぶ創造力育成事業を行ってもらおう。あとは、大阪・関西万博に加西市は STEAM や脱炭素について出展するつもりである。だから、STEAM は大きなキーワードになっている。学校づくり STEAM 事業では、北条東小学校で、P P E S (プライムプラネットエナジー&ソリューションズ)さんと一緒に授業をしているので、脱炭素の権威、専門家のような子がいると聞いている。そんな子どもたちで、世界サミットができたらいと思う。その STEAM 関連事業に 600 万円あまり、学校づくり×STEAM 推進事業やスクールサポーター事業に 7,000 万円かかる。

この予算の中には新中学校の基本構想策定事業もある。中学校は 1,000 万円を組んで、具体的に検討していく。私が一番大事だと思っているのは新中学校だけではなくて、公共の建築物というのは、単なる建築物つまり箱物ではなくて、それを建てた自治体のビジョン、世界感、或いは文化度を目に見える形でわかりやすく表現する大変重要なものだと考えている。未来型児童館も新中学校の建設も、箱物を建てるハード事業だと思う人が多いが、教育のあり方というものを目に見える形で示すソフト事業だということを知ってほしい。

公民館運営、文化財管理担当の生涯学習課は、STEAM 教育事業費 1,000 万ほど組んでいる。新しいことにチャレンジして、公民館を変えるための予算である。玉丘史跡公園の整備も始まり、国県の予算以外に、加西市でも 1,200 万円ほど予算を組む予定である。

問題を抱えている子どもたちのデイケアや先生の研修立案をしている総合教育センターでは、1,400 万円の予算を組んで、校内フリースクールを始める。それが不登校の中学生やその保護者にとって、本当に少しでも新しい光になればと思っている。このフリースクールは北播では初めての試みである。校内に別の入口を作って、教室に入らなくてもオンラインで勉強ができ、自由な形で学んだり遊んだり読書をしたりできるようにする予定だ。

あとは学校やこども園の整備費用に、毎年 1 億円以上の費用がかかる。

本日の会議を運営する図書館は、スマート図書館推進事業に 260 万円、電子図書の充実に 230 万。LED 改修工事に 4,500 万円をおいている。やはりハード事業にお金がかかる。

新聞報道で皆さんご存知だと思うが、子育て支援を含む人口増対策の充実に、約 7 億円、脱炭素社会を目指す施策で 6 億円ぐらいかける。今までの中で最も大きな額、245 億円の予算を組んでいる。それは、ふるさと納税のおかげだが、ふるさと納税も黙って仕事をしていただけであれだけの額になったのではない。職員が必死に努力している。特に若い人たちが頑張っているのがよい。今のまま続けてくれたらいいと思う。

加西市は令和 4 年 11 月に脱炭素先行地域に選定された。環境省から交付される額は 5 年間

で50億円である。全国1,741ある市町村の中で選定された市町は今のところまだ46しかない。その中の一つに加西市が入っている。ふるさと納税は9番になっている。今まででは考えられないことだ。

やはり脱炭素もSTEAMもスマートシティもだが、世界的な課題に挑戦しないと国家予算は下りてこない。みんながやっている平均的なことを一生懸命やっても高が知れている。でも半歩でも一歩でも先に出て挑戦し、プランと実行力があるということになると国家から予算も下りてくる。私はデジタル田園都市国家構想で3億円が下りたと喜んでいたので、脱炭素は50億円と聞いて本当にびっくりした。

加西市は子育てにやさしいまちづくり、次世代育成の探求型先端教育など教育と子育てに力を注いでいて、この1月から本格的に加西市内16小・中・特別支援学校、公民館にSTEAMラボを設置した。ラボとは実験室である。教室には色とりどりのツールが置かれて、子どもたちが360度カメラ、3Dプリンター、VRゴーグルなどを利活用できる場所だ。子どもたちはすごく喜んで活用しているようだ。STEAMラボもぜひ見てほしい。もし学校に行きにくかったら善防公民館にも特設してある。総合教育センターでは、機器を置き、教師のためのSTEAMセミナーやモデル事業も行われている。

それで、例えば、教育委員会賞を受賞した賀茂小学校の6年生の女子は兵庫県のプログラミング大会で入賞した。全国の目の不自由な人の30%しか盲導犬をもつことができない現実を知って、盲導犬ロボットを作った。今までも優秀な子はたくさんいたと思うが、やはりSTEAMの授業で、プログラミングもできるようになって、素晴らしい子がどんどん誕生していることは本当に嬉しいことだ。

STEAMの取組とスマート図書館事業はある意味では一環でもある。図書館でも、もっと進めてほしい。職員は頑張ると思うので応援してほしい。

3 報告・議事事項

民輪館長補佐から、以後の議事進行を笹倉会長に依頼した。

- (1) 令和4年度図書館利用状況と蔵書点検結果について（民輪館長補佐説明）
- (2) スマート図書館ネットワーク事業について（伊藤館長説明）
- (3) 加西市立図書館運営方針の一部改正について（伊藤館長説明）
- (4) 図書館アンケートについて（深田係長説明）

委員：このアンケートの結果は面白いと思う。健康ポイントが欲しいためにWebから回答をする人が多かった。図書館には行ってないけれども、意見をいただけたのは面白い結果だと思う。だからといって、来年度アンケートを取ったときに今回と比較するのはどうかと思う。このアンケートの取り方は初めてですか。

事務局：館内で紙のアンケートは以前も行っていたが、この形では今回初めてである。

委員：だからアンケート結果に今まで出てこなかった数字が出たのだろうと思う。

8月にスマート図書館事業についての詳しい説明を封書でいただいている。改めて、スマート図書館事業の表を見て、生涯学習という点からも、地域にある公民館をもっと利用することは

大事なことであると思う。今回のスマート図書館事業で、公民館と図書館との連携ができたのか。端末も置いてあるのか。

事務局：連携のシステムを整備し、端末も置いてある。

委員：図書館と公民館の連携を地域にどう知らせていくのか、多くの方に利用してもらうか工夫が必要である。それは、学校との連携よりずっと難しいことだと思う。

それから、公民館で本の受取ができるが、公民館の職員の方がどこまで対応するのかということもしっかり決めておかないといけない。図書館の職員ではないのにそこまでしなければいけないのかという意見もあると思う。でも、公民館を利用する高齢者にしたら本の相談を電話や、実際にその場ですることもあると思うので、うまく双方が連携しながら、本当の意味でのスマートになってほしい。

教育長：公民館で、STEAM ラボも含めて市民の方にもっと利用してもらうための一つのキーポイントは、図書館だと思う。なぜかというと図書館が公民館で、簡単にいろいろと手助けできるようになったら、各公民館に専門書を置いて、例えば善防は自然、北部は農業、南部は食育をテーマに、STEAM やデジタルと結びつけて、お年寄りや若い人がより深く学べるような場所にしたいと思う。また、生涯学習課も若い人向けの講座を開くようにしている。そうして少しずつ活性化していかないといけない。

委員：公民館というのは、社会教育法で設置されているから、そもそも、図書館法の適用を受けない。多可町では、公民館の図書室を分館構想で図書館と位置付けている。そうすると、図書館法により専門の職員を置かなければならなくなる。だから、公民館の位置付けを法的に整備して、専門の職員を配置すれば、利用者も増えてくると思う。人を置かなくていい、本の分類もどうでもいい、どこにどんな本があろうが、自分で探せというのではよくない。

イギリスでは、子どもが自転車もしくは歩いて行ける距離に図書館がある。公民館の数ほどイギリスには図書館がある。図書館というものが全く違う。

教育長：イギリスの図書館はすごい。考え方が違う。

委員：私もコーラスで公民館を利用している。働いているので利用するのが夜になる。

夜はシルバー人材センターの方が1人いるだけなので、その方に図書館の業務をお任せするのは難しいと思う。

委員：本の返却となると、図書館に行くのは遠い。閉館時間に間に合わないことがあるので、図書館に返却ポストがあって本当に助かっている。公民館でも本が返せるようになったが、ただ、北部公民館に本を返却するとなると話は別だ。車に乗れる人は違うが、北部公民館に、階段を上って本を返しに行くのは大変である。また、本を借りるときは、車に乗れる人は本の種類が多い図書館に行きたいと思う。自分が読みたい本を見つけて、その周辺の本も見ると楽しみがあるので、行ける人はきっと図書館へ行く。しかし、本を返すとなると図書館は遠い。私の場合、片道20分はかかる。公民館で本の返却ができるのは良いが、北部公民館より旧の日吉幼稚園やスーパーマーケットの方が実は返しやすい。

委員：私はコーラスの活動で北部公民館を利用している。それで、北部公民館はいつになったら新しくなるのかという話がよくでるが、全く見通しが立たない。階段を上がるだけでもたいへんである。私の場合、善防公民館は距離的にはちょっと遠い。一番行きやすいのは南部公民

館かなと思うが、公民館で本を返すとか借りるとかいうことは、いろいろと解決しなければならないことがあり、難しいと思う。それをどう解決していくかがこれからの課題だと思う。

委員：加西市は、学校図書館と公共図書館とで MARC（機械可読目録）の統一ができた。TRC（図書館流通センター）で MARC を統一したから、検索すると本がどこにあるかわかるので本を集めやすい。それができていない兵庫県の市町はまだある。私はこの協議会に参加してからずっとお願いしてきて、やっとできた。今度は公民館も図書館の分館に入れて、地域の子どもが公民館で司書の方に本の相談ができるようになると思うと利用が増え、また、お年寄りや足の不自由な方、車の免許もない方にも利用が広がるのでは思う。

委員：システムが統一されたから、一般の方からも学校図書館の資料検索もできるのか。

事務局：図書館の職員はできるが、一般の方はできない。学校の本は子どもたちが利用するためのもので、一般の方が検索できるようにすると学校の本も貸出ができると思って要らぬ誤解を与えてしまう。

委員：システムが導入されたあと小学校へ行ったら、図書担当の先生が、学校でも子どもたちが自分で本選びができるようになって良かったと言われていた。加西市立図書館運営方針の子どもたちの読書活動の推進で、このタブレット端末をやっと利用できるようになって、子どもたちが借りたい本を自分で探すというのもよいのだが、ブックトークができたと思う。私たちも、学校から、学年ごとに取り組んでいることに関する本の読み聞かせをして欲しいという要望をいただく。例えば宇宙や命などのテーマにそった本を紹介して欲しいという学校の要望をきいて、図書館が子どもたちの Chromebook に発信することができるのではないかと思う。それから笹倉先生が各学校でされているビブリオトークも小学校で関心がとても高い。笹倉先生のビブリオトークを他の学校にも発信するとか、それを子どもたちが読みたい時に読むとか、それから朝読書の時間にもうけるなど、いろいろと学校で利用できるのではないかと思う。ぜひ、ブックトークという大きなものではなくても、テーマに関する本を図書館から発信してもらいたい。

委員：学校でもぜひお願いしたい。私の学校の場合だが、子どもたちの読書については二極化している。本に興味を持ってもらえるように、Chromebook を利用して、図書の部屋というものを開設しようと考えている。その中に図書館から、おすすめ本の情報を入れてもらえるのであれば、非常にありがたい。今、市のホームページが検索できるのだが、子ども向けではないから、子どもたちの興味をひくようなものがあつたらと思う。図書館の取組の中で、12月に tupera tupera（ツペラ ツペラ）さんの絵本ライブがあつた。ポスターを学校に貼っていたら、子どもたちの目をひいて、家の人に行きたいと頼んだけどだめだったと残念そうに話をしていた子がいた。申込が多くて抽選もあつたようだ。教育長の話で最初にあつた STEAM ラボという教室が各学校にできている。私の学校も今日、ラボで一年生が北海道のロケット開発企業さんとオンラインで結んで出前講座をしていただいた。そういうことが気軽にできるので、もし可能であるならば、人数制限があつて参加できないようなイベントもオンラインでつなげたら問題はなくなる。学校も他の学校が見えるようなシステムになれば、可能性がさらに広がる。

実際、スマート図書館事業について、2～4月にかけて徐々に進めようとしている学校がほ

とんだ。学校司書は小学校では学級担任、中学校は国語の教師が務めるので、手一杯である。図書館の司書の方に助けていただいて、本当にありがたいと思う。今度からは担任が本の検索ができるので団体貸出をお願いする際に本の指定ができるようになった。また Chromebook を使った読書活動がどんどん進むと期待はしている。

委員：図書館だけで小中学校のテーマに関する本を調べて集めるのは難しいと思う。日常業務もある。国立国会図書館は、パスファインダー、いわゆる、このテーマではこういう本があるという一覧を整理している。それを図書館や学校図書館で利用したらよいと思う。

事務局：それを利用して、子どもたちが喜ぶかたちで何かできたらと思う。

委員：国立国会図書館がレファレンスの共同データベースを作成している。どの図書館でも使える。うまく利用したら、仕事量はかなり減ると思う。図書館で一から作ろうと思ったら大変である。

事務局：ありがとうございます。活用させていただきます。

委員：私は総合教育センターで、スマート図書館事業の担当をしている。今までは学校教員の方に本の貸出をするときは、個々に来ていただくか、移動図書館で学校に本を運んでいた。本の検索は目録の冊子とエクセルに落としたデータで選んでもらっていたが、センターの資料がシステムで検索できるようになったので、教員が自分で資料を検索できる。例えば不登校について調べて、必要な資料だけを集めることができるようになった。

図書館は3月1日から事業を始めているが、総合教育センターでは準備中である。システムに書誌データの入っていない教育雑誌などについて、内容等を一生懸命に手動で打ち込んでいく。県教育委員会の兵庫教育やその他の研究紀要、学校が作成した実践学習報告を入力するにはまだまだ時間がかかる。

先生がこのシステムを利用して本を検索するという習慣を身に付けるようになれば効果がある。移動図書館で本を持っていっても、興味を示す学校もあれば、あまり興味を示されない学校もある。せっきくのシステムなので、この制度について周知することが必要だと思う。

委員：このアンケート集計の結果で、図書館を利用しない理由で本は自分で購入するという方が結構多いことが目についた。自分で勉強する方は、本に対する投資を絶対に惜しまないということだと思う。私も読みたい本があるとインターネットで調べて購入するので、なかなか図書館には足が向かない。この結果を見て自分自身でも少し反省している。

委員：購入してみても違うと思う本もあるから、一度図書館で借りてみて、良い本だけを購入するようにすると間違いがない。

委員：今度から一度図書館で本を調べてから購入しようと思う。

教育長：このアンケートの結果をどう解釈してどう生かしていくかということが大事である。

委員：事業の実績を見ると、図書館と関わっている学校は決まっていると感じた。残念ながら私の子どもの学校は、あまり関わっていないようだ。どう本と向き合っているのかという不安もある。

委員：学校によっては図書館ではなく、ボランティア団体の「かさい・えほんの森」や「ぶらんこの会」が読み聞かせに入っておられる。

委員：子どもからその話を聞かない。積極的にされている学校とそうでない学校の差が、今

後、子どもたちの育っていく中で、例えば本が好きになる、遠のいてしまうなどに影響が出るのかなと思い、少し不安になってしまった。

委員：やはり、校長先生が何を優先するのかによって違う。特に今学校ですることが増えているので、本の時間がとりにくい学校もあるが、ボランティアとして、学期に2回くらい読み聞かせに行っているところもある。どういう経緯で私たちに依頼されるのかはわからない。

委員：ボランティアの方ではなく、職員が読み聞かせをしている学校もある。北条東小学校は、6年生が縦割り班活動で読み聞かせをしている。学校によって取組は違う。

事務局：この実績は図書館に依頼があった分のみである。図書館からだけではなく、学校の先生や他のボランティアさんの活動もある。それぞれ違う方が活動をされている場合もある。

委員：こども園では、職員が多忙で、図書館の新しい絵本もなかなか借りることができない。幼保巡回図書貸出で、図書館から2ヶ月に1回50冊の本を届けてもらっている。それを担任たちは参考にして園の本を購入している。とても助かっていてありがたいと思っている。小学校はChromebookで図書館と繋がっていて、図書館から絵本ライブがみれたらいいな、オンラインで学校とつなげたらいいなという話を聞くとうらやましい。こども園には、iPadが1台しかない。子どもたちと何か調べたいときに、iPadが1台しかないためなかなか使用できない。その場合は、担任が自分の携帯を使用して調べている。担任全員が持てるようになったらありがたい。また、小学生がChromebookを使っているの、園の子どもたちにも使わせてあげたいと思う。

教育長：そういったことはどんどん要求してほしい。要求がないとこちらはわからない。

委員：ぜひ、加西市にこども図書館を作って欲しい。広島県には4館ほどこども図書館がある。なぜかという、戦争で打ちひしがれた県民をよみがえらせるために何が必要かと、アメリカが原爆ドームの横にこども図書館を建てた。ドイツはドレスデンだったか、8割の施設が壊されて、地下豪などで生活をしている子どもたちのために、世界中から本を集めて展示会をした。加西市はふるさと納税だけではなくて、こども図書館を建てることで、子どもを連れて加西市へ移住してもらえる教育市だということをアピールできたらいいと思う。

教育長：未来型児童館にはそういうことも入れたいと思う。理想とすることをいろいろ言うのだが、現実的にはハードを建てることに対する抵抗からなかなか抜けきれない。ハードというのはソフトを生かすためのハードだと一生懸命に話をしている。

委員：児童館にすると、法律上、司書を置かなくてもよいが、図書館やこども図書館とすれば、専任の司書を置かなくてはならない。だからぜひ加西市にもこども図書館を作って欲しいと思う。

教育長：こどもの支援などを総合的にまとめるエリアが欲しいのだが建てる土地がない。いい土地だと思っても市街化調整区域であることが多いため、外すには10年かかると言われる。

委員：他県に住む4か月半の孫が図書館デビューの会に行ってきた。4か月半で図書館にデビューかと驚いた。また、3か月健診時にブックスタートの案内があり、読書手帳と絵本を2冊プレゼントされたと聞いた。

委員：加西市も同じことをされているはずだが。

事務局：コロナ禍になる前に健康課と健診時に訪問する相談をしていた。健診では、お母さん

方は小さい子どもを連れていて、長居するのが難しいとのことだったので、健診が終わったあとに、廊下で、図書館スタッフが冊子を配布し、質問等があれば受ける機会を設けようと考えていたら、コロナ禍になってしまい今に至っている。こども未来課では、1歳6か月健診時に絵本を2冊プレゼントしている。

委員：図書館カードを発行する用紙を渡されていたのでは。

事務局：市民課で出産届を出された方に、図書館についての案内を他の課の案内と一緒に渡してもらっている。0歳から図書館カードを作成できることや読書手帳を配布することなどを案内している。

事務局：コロナもだいぶ落ち着いてきたので、そろそろ話を進めてもいいと思っている。

教育長：部署をまたいで進めることも大事である。文化とはそういうことができないとだめだから、ぜひ進めてください。

4 連絡事項

図書館協議会委員の任期について（伊藤館長説明）

委員：富田小学校学校図書館リニューアルについてPRしたい。協議会資料に、多可町の中町南小学校の例が載っているが、富田小学校でも笹倉先生にお願いして、2月13日に、7名の神戸親和女子大学絵本サークル学生ボランティアの方に、お配りした資料にある、このような温かい空間にさせていただいた。また、圧巻だったのが、笹倉先生の絵本を使わない読み聞かせで、子どもたちと一緒にその世界に引き込まれてしまった。

そして、10月に富田小学校のPTA講演会で、保護者の方にも本のよさを知って欲しいと、松本さんに絵本を読んでもらい、オカリナの演奏をさせていただいた。

大きなSTEAMではないが、国語科と算数科と図工科の横断をして、5年生24人がおすすめ本について、ポップを作り、紀伊国屋書店加古川支店の1番目立つところに、富田小学校5年生の選書フェアとして展示していただいている。もし加古川へ行かれることがあるなら、ぜひ覗いてみてほしい。

次に、8月23日に市民会館で、県の学校図書館の研究大会を開催する。笹倉先生に各小中高の取組について指導助言をしていただくのと、富田小出身の京都在住の永田萌先生に講演をしてもらう。

(5) 閉会 副会長が閉会のあいさつをした。

STEAMとかSMARTとか英語が苦手な私には内容がいままで理解できなかったのだが、今回の会議で随分と理解できたようだ。

私は「かさい・絵本の森」というボランティア団体の活動のひとつとして、図書館でお話を年間40回ぐらい、20人ぐらいの仲間と一緒にしている。毎回、読み聞かせをした絵本の記録と反省会をしている。ボランティア会議に向けて、子どもたちの反応や自分が読んでどうだったか、みんなの感想を1年分まとめて作り上げたところだ。みんなはとても真面目で、ここが駄目だったとかこうすればよかったとか反省ばかりして、いい読み聞かせができ

たという人はなかなかいない。いつも終わった後に本の選書はこっちの方がよかったかなと反省をしている。お話会は小学校低学年ぐらいまでを対象にしているが、ほぼ3～5歳までの子どもたちしかこないのに、絵本を読んであげるのではなくて子どもと絵本を楽しみたいとみんな熱心に考えている。私の手前みそになるが、全く目立たなくて本当に手弁当で何十年も集まってきてくれる素晴らしい仲間だ。何の見返りも求めずにこつこつとやっている人が加西市にはたくさんいる。そういう人がいるということが少しでも世間に伝わればありがたい。

教育長：最近になってそういう人たちがたくさんいるのが加西市だということが徐々にわかってきて感動している。ただ、みんなすごく真面目だから何も言わない。言わなかったらわからない。地道に活動している人はたくさんいるので、そういうことを公にしていけたら、加西市がいい方向に変わると思う。そして、もっと若い人たちが来て住みたいと思うようなところになってくれればいいと思う。

(17:00終了)